

テーマ名「知床の未来を担う人材の育成」

学校名 斜里町立朝日小学校

校長名 吉本 隆

担当者名 松原 みどり

- 1 活動の趣旨 本校は、「知床の地域の自然や社会、歴史産業、伝統文化等に積極的に触れさせることにより探究的な能力や自己の生き方をはぐくむ学習」を ESD と位置付け、実践を通して「自然環境と人間の豊かな生活、その共存に向けて創造する力」の育成を目標としている。具体的には、主に総合的な学習の時間を通して「世界自然遺産知床」を柱に、①自然に関わる活動、②福祉に関わる活動、③地域・社会（人と人とのつながり）に関わる活動を行った。
- 2 活動計画 本校は、ESD の中心を総合的な学習の時間に位置付け、教育課程に組み込んでいる。令和3年度の学習活動は次の通りである。

6年生	～	世界自然遺産、生物多様性（自然に関わる活動）
5年生	～	福祉に関わる活動
4年生	}	地域・社会（人と人とのつながりに関わる活動）
3年生		

職員がより主体的にユネスコスクールとしての活動を進められるように、ESD 推進教師が計画的・組織的に推進していく。

### 3 活動事例

#### ①自然に関わる活動

6年生の総合的な学習では、『世界遺産知床』について、魅力を追い求めていく体験的な活動を重視して単元に取り組んだ。

ユニット1では、魅力を伝えるための動画作成をゴールとして設定した。実際にプロ写真家の方にアドバイザーとして関わっていただき、動画の撮り方・編集のしかたなどを学ぶことができた。

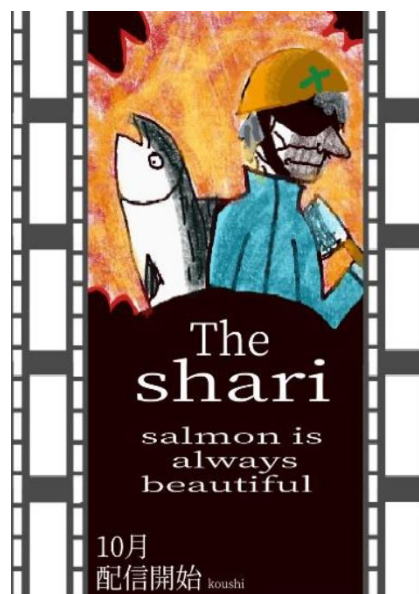
ユニット2では、知った魅力を動画にまとめ、その動画を拡散させる手立てを考えた。

ユニット3では、地元の人々の知床への関心の薄さを知り、地元の人へも伝えるということも意識して活動を考えた。



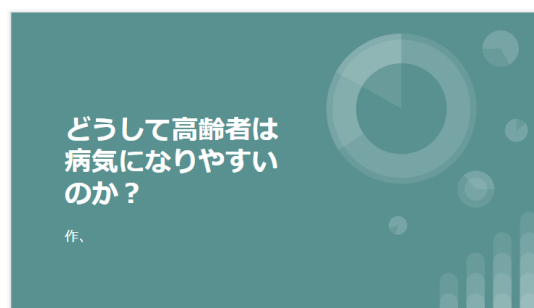
国語科と関連させてのパンフレット作成（巻末に動画視聴を促すために、QRコードを貼り付けている。）、児童の自主的なポスター作製など、児童が主体的に行動する姿が見られた。

知っているようで知らなかった身近な自然に触れ、改めて自然の偉大さ・優美さに気づくとともに、それらとは異なる一面を目の当たりにし、地域への愛着を醸成することができた。



## ②福祉に関わる活動

5年生の総合的な学習では、「高齢者福祉」について考えた。「お年寄りなぜ病気にかかりやすいの?」「なぜ目や耳などが悪くなるの?」など、児童が身の回りで感じた疑問を課題とし調べ学習を行った。コロナ禍のため、実際に高齢者の方とふれあうことはできなかったが、知識として得たことをこれからの生活の中で役立ててほしい。



## ③地域・社会（人と人とのつながり）に関わる活動

4年生の総合的な学習では、地域の一員としてイベントを盛り上げる活動を行った。地域の方のアドバイスを受けながら春から育てたカボチャを秋に収穫し、そのカボチャを使ってイベントを盛り上げるにはどうすればよいかアイデアを出し合った。そしてイベント当日、これまでの総合的な学習で学んできたことを地域の方に向けて発表した。児童は、イベント主催者との協働が進むにつれ、絆が生まれ、自分の住むまちへの愛着が深くなっていく活動となった。



3年生の総合的な学習では、地域の農業に着目して学習を行った。農家の畑に植えてある小麦・ビート・ニンジン・ジャガイモなどを観察したり、「知床斜里ブランド」の食物を試食したりする活動を通して、農業に携わる人々の地域への思いを学んだ。



#### 4 成果と課題

今年度はコロナ禍の影響で予定していた地域行事が中止になるなど、活動が制限されたこともあったが、その中で何ができるかという観点で授業づくりを行った。職員や地域の人々と知恵を出し合って、これまでに行ってきた活動をできる範囲で工夫して行う一年となった。

次年度も、コロナ前の学習活動を受け継ぎつつ、①E S D研修事業への積極的な参加、②外部人材を効果的に活用したE S Dの実施などを進めていきたい。